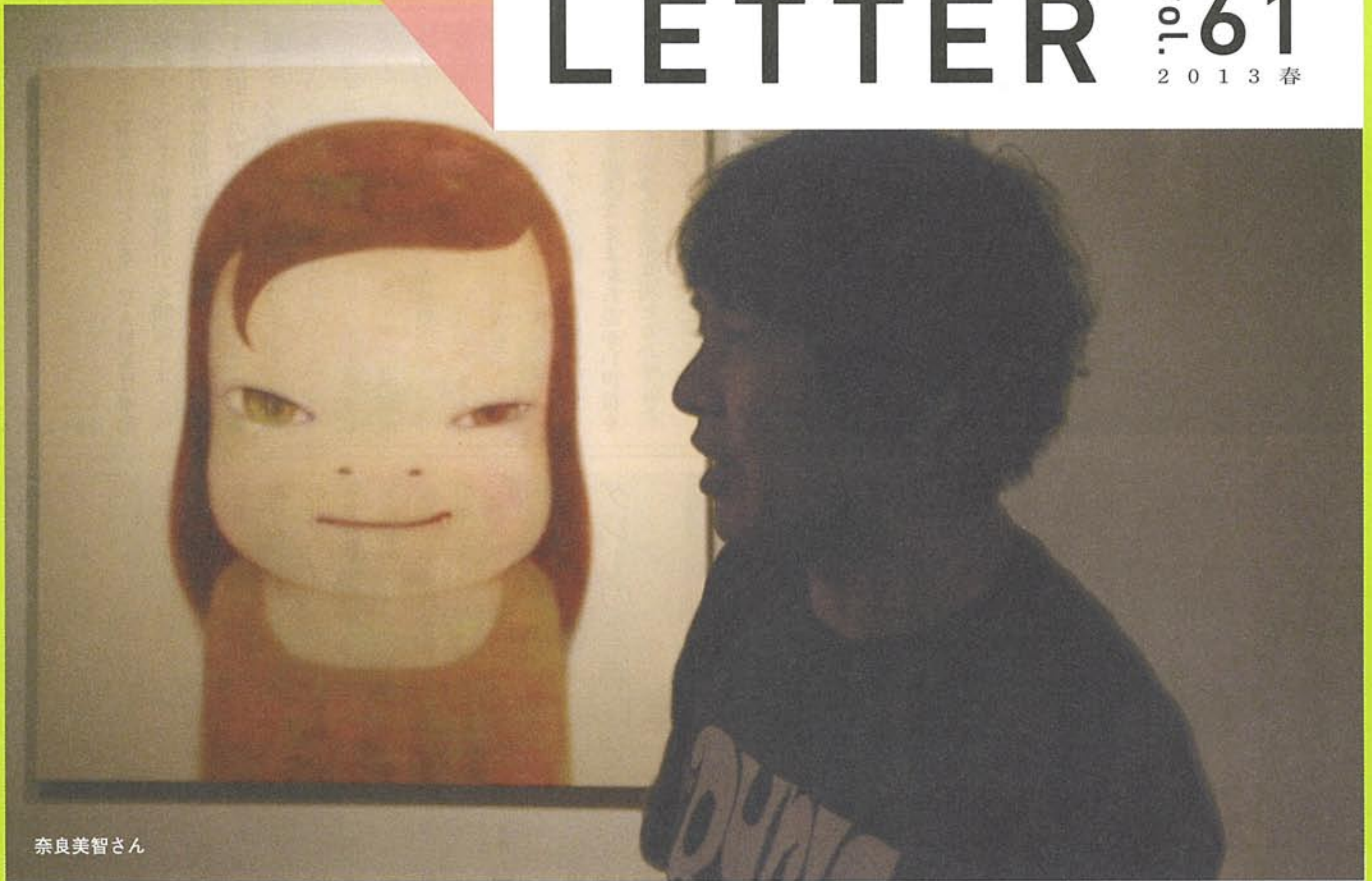


ART KISS  
LETTER Vol. 61  
2013 春

奈良美智さん

## 巻頭言

## 芸術の女神―南仏エクサンプロヴァンス

熊本市と交流都市協定が結ばれた南仏のエクサンプロヴァンス市(通常エクスと呼ばれる)は、17・18世紀の優雅な建物が建ち並ぶ、落ち着いた美しい街である。学園都市であり芸術文化の街であり、とりわけ毎年夏に行われる音楽祭はヨーロッパ屈指のものである。

「欧州文化首都」は、毎年、国と都市を変えながら一年を通して行われる一大イベントであるが、本年はエクスを含めたマルセイユ/プロヴァンスが「首都」となった。一月には盛大な式典が、まずエクスで始まり、日を変えてマルセイユ、そしてアルルと続いた。各式典ではフランスのお国柄らしく、挨拶は極めて長大で熱烈。特に大統領が出席予定であった主要会場マルセイユでは、市長をはじめ各々20分にわたるもので、「マルセイユ」と「メディテラネ(地中海)」が歌うように何十回も繰り返され、壮大なビジョンに基づく大演説会とも言えるものだった。

注目すべきは、この「文化首都」幕開けに合わせたのが各地における現代美術展、それも地中海全域からアフリカや、日本を含めたアジアに至る作家を集めた国際展であり、それは大きな視野に立つものだった。

この「欧州文化首都」は、そのスケールの大きさ、イベントの多様さ、それに都市を挙げての熱気が注目されてきた。エクスのメイン・ストリートであるクール・ミラポーは現在、プラタナスの並木が草間彌生のインスタレーションによって華やかに変貌し、この地における「欧州文化首都」祭典に強力な彩りを添えていた。

ところでエクス市中心部にある広場「ロンドン」には3人の女神像が象徴的に建っている。一人は司法を、もう一人は農業を、そして最後は芸術を司る女神である。セザンヌやゾラを生みだし、多くの芸術家を引き寄せ、今でも芸術を育むこの土地の特徴がよく表されており興味深かった。

熊本市現代美術館館長 桜井武

奈良美智 君や僕にちょっと似ている  
2013年1月26日[土] - 4月14日[日]

<http://www.camk.or.jp>

# MUSEUM INFORMATION

2013 JAN-FEB

## 新春福引

2013.1.4



今年で第2回目となる、CAMK仕事始めの大イベント「新春福引」を開催しました。当館の新春福引は参加費無料で、おひとり1回限りの空くじなし。賞品としては、当館カタログや美術館グッズなどを、くじ引きをしながら選んでいただくイベントです。今年も「昨年引き続き、今年も来ましたよ」というリピーターさんや、展覧会カタログを見ながら、「この展覧会、すごく面白かったわよ！」などというお声もお聞かせいただきました。福引大会でした。お正月の来館者増をめざして開始したイベントですが、スタッフ一同、仕事始めの日に、美術館ファンのみならず温かい声援をいただける、大事な素敵な場となりました。(H・T)

【参加人数663人】

## 熊本市特別支援学級 交流学習会

2013.1.11

熊本市内の特別支援学級に通う生徒の皆さんの交流学習会を当館で行いました。今回は、出水南、東部、下城南、湖東、長嶺、五霊、竜南、西山、江原、城南、城西、三和など、熊本市内の中学校から先生方もあわせて、104名にご参加いただきました。学芸員から鑑賞のマナーなどを聴いたあと、美術館のフリーゾーンと市民美術展を皆で鑑賞。会場内にあふれる数百点の作品を皆で楽しみました。(A・S)

【参加人数104人】

## グレーの会研修会

2013.2.10

2010年に県下の公立美術館5館で共同開催した「坂本善三展」をきっかけに作られた、学芸員の研究グループ「グレーの会」の研修会を行いました。「グレーの会」の名称は、「グレーの画家」と呼ばれた坂本善三に由来しています。

熊本市立美術館、坂本善三美術館、不知

## 月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料

### 上映リスト(1/4 ~ 2/24)

- |               |       |        |      |
|---------------|-------|--------|------|
| 1月7日「黄金狂時代」   | 1925年 | アメリカ映画 | 85分  |
| 1月14日「できごと」   | 1967年 | イギリス映画 | 106分 |
| 1月21日「クレオパトラ」 | 1934年 | アメリカ映画 | 99分  |
| 1月28日「嘆きの天使」  | 1930年 | ドイツ映画  | 103分 |
| 2月4日「恋愛準決勝戦」  | 1951年 | アメリカ映画 | 93分  |
| 2月11日「邂逅」     | 1939年 | アメリカ映画 | 87分  |
| 2月18日「友情」     | 1974年 | フランス映画 | 104分 |

火美術館、つなぎ美術館、そして当館と、県下の北から南まで、立地も学芸員数も様々な館同士ですが、各館の悩みや活動のアイデアを共有したり、共通の研究テーマを考えるような取り組みを継続しています。今回は、県美で開催中の「大原美術館展」にあわせて来館された同館の柳沢課長に大原の活動全般のレクチャーをしていただき、その後、「美術館のミッション見直し」「友の会の在り方」、また「熊本の近代作家をテーマにした連携展の方向性」などについて熱い議論が繰り広げられました。(A・S)



ホームギャラリーからのお便り  
おすすめの一冊をご紹介します。

VOL.15

「たのしい写真  
よい子のための写真教室」



著者：ホンマタカシ 出版：平凡社 2009年

金沢、東京、丸亀を巡回した個展「ニユー！ドキュメンタリー」も記憶に新しいホンマタカシさん。そのホンマさんの「写真愛」が伝わってくるのが、本書「たのしい写真よい子のための写真教室」です。

やさしい語り口で講義編、ワークショップ編、放課後編、補習編と語られていきますが、内容は美術大学の講義レベル、いやそれ以上といってもいい、実際に第一線で活躍する写真家ならではの目線で「写真史」が解きほぐされていきます。その過程が、とつてもスリリング！写真は好きだけれど、歴史や見方がよくわからないなあ…という方に、とてもお薦めの一冊です。服部一成さんによる、端正な装丁もお洒落ですし、ホンマさん自身の作品も技法を解説しながらたくさん掲載されているので、写真集としても楽しめます。非常に知的でレトリカルでありながら、エンターテインメント性も兼ね備えた、ホンマさんの写真やご本人の魅力がそのまま詰まったような素敵な本です。(A・S)



CAMKEESの活動

美術館ボランティア  
CAMKEES(キャンキース)による活動紹介

『CAMKEESのあゆみ』  
発行

2013.1.13

この度、2002年の開館当初から2012年までのボランティアの記録を綴った『CAMKEESのあゆみ』が完成いたしました。

この記録集は、2012年10月に開館10周年を迎えた当館の記念事業の一環として、美術館ボランティアから結成された「記録集チーム」が、ボランティア活動をインタビュー、イベント活動の撮影・記録、記事の作成、編集、レイアウトまですべて担当して作り上げたものです。

過去に当館のボランティア活動をされた方で入手ご希望の方は美術館までご連絡ください。無料で贈呈いたします。(C・T)



CAMK「読みがたり」第41回  
テーマ「にっぽんのおはなし」

2012.1.12

新年1回目の読みがたりのテーマは、「にっぽんのおはなし」。お餅や今年の干支のへびなどが物語に登場し、新春らしい読みがたりとなりました。絵本「おめでどう」では、おはなしにでてくる「おめでどう」の言葉で、子どもたちも一緒に声に出す姿が見られました。その他、紙しばい「にらめっこしましょ あっぷつぶ!」や手あそび「もちっこやいて」、エプロンシアター「3びきのがらがらどん」など、楽しいおはなしを盛りだくさんでお送りしました。(Y・M)

【参加人数40人】



CAMK「読みがたり」第42回  
テーマ「ふゆのおはなし」

2012.2.16



2月のテーマは「ふゆのおはなし」でした。絵本は、さまざまな雪や氷の世界を知る写真絵本「おかしなゆき ふしぎなこおり」、また、思わず隣の人とおしあいつこをしてしまう「おしくらまんじゅう」、パネルシアターや手遊び歌では代表的な冬の野菜である大根を取り入れたもの、可愛い桃色のでぶくろが登場してのミニボエムなど、たくさん「ふゆ」をご紹介しました。

大人気の紙芝居では、木杵が見えた瞬間にパンザイをするお友達や前へかけてくるお友達の姿も見られました。(C・T)

【参加人数25人】

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の  
自作の詩の朗読会です

テーマ「巳(蛇)」

2013.1.24

第110回詩の朗読会、2013年最初のテーマは「巳(蛇)」でした。

今年一年を輝かしく過ごす決意や、巳年生まれの話、ヤマタノオロチの昔話、自身が蛇となり靴や鞆となって人間をみつめるユニークな詩が発表されました。神聖なもの、または邪悪なものという2面性を持つ蛇がテーマだけに、それぞれに全く異なる切り口が印象的でした。(C・T)

【参加人数14人】



奈良展の  
関連イベント(前半)は  
こんな感じでした!



GI  
GII

## 奈良美智 アーティストトーク



2013.1.27

事前に入場券抽選を行い、見事当選された290名の方々、熱気に包まれながら、奈良美智さんのアーティストトークは開催されました。

1980年代から現在までの奈良さんが撮りためた15分間の写真のスライドショーから始まり、2011年夏から2012年夏までの期間の「君や 僕に ちょっと似ている」展が始まる前の、1年間の様子を膨大な写真のスライドと、奈良さんご自身の解説によって振り返りました。地震直後に自宅の小物の数々を手ずから修復した様子から、被災地での鯉のぼりWS、大型の絵画作品がなかなか描けなくて悩んでいた頃、愛知県芸大でのレジデンスの様子と粘土塑像(ブロンズ作品原型)に取り組んだ

日々、大型絵画作品が完成していく様子など、出品作品制作の様子をたくさん見ることができるとのことでした。

会の最後の、粘土塑像に取り組んだ時のお話で印象的だったのは次の一言でした。「地震のショックや悲しみの体験をいかたちに昇華したいと考えていた、自分の持つ器用さや技巧を取り除いて、体全体を使って粘土と格闘するような感じだった。全体像が全然見えないままで進めていて、ある時に、目や鼻や口やとんがっている髪の毛がみえてきて、その時にぐっとそれを突き詰める感じで作っていった。その後大きな絵画作品も描けるようになったし、自分のなかで本当に何かのきっかけになった。」(H・T)

【参加人数290人】

## 中心商店街を対象としたナイトツアー



2013.1.31&2.22

上通・下通・新市街の商店街の皆様を対象とした、展覧会ナイトツアーを開催しました。開館10周年を無事に迎えた当館ですが、当館の開館時間が各商店街の営業時間と重なるため、なかなか

ご近所の店舗の方々にご来館いただくことが難しいという悩みがありました。そんな時に九州国立博物館では地元商店街向けのギャラリーツアーがあると聞き、当館も是非行ってみよう、というのが開催のきっかけでした。「店舗が混みあいまして…」と残念そうに当日にキャンセルのご連絡をいただいた方もいらっしゃいましたが、参加いただいた方々は、担当学芸員のギャラリーツアーで楽しく本展を観覧いただけただけの様子でした。今後も継続的にこのような取り組みを実施していく予定です。(H・T)

【参加人数合計28人】

## 奈良美智展 ぬりえコーナー



2013.1.26-4.14

奈良美智展では、期間中、展覧会に入場して下さった方に「ぬりえ(夜露死苦(よろしく)ガール)」をおひとり1枚無料配布しました。この「夜露死苦ガール」のぬりえは、熊本展オリジナルイベントとして奈良美智さんが発案・画像提供をしてくださったものです。展示室の出口横に、色を塗ったり、出来上がったぬりえを壁に貼ったりするこ

## 熊本アートパレード 特別上映会

2013.1.12

熊本アートパレード関連イベントとして、特別上映会を行いました。今回のテーマ「欲しくなる作品」に合わせ、約30年の歳月をかけて現代アートをコレクションし、ついには2000点以上の作品を美術館に寄贈するに至った夫婦の物語「ハープ&ドロシー」を上映しました。(E・Z)

【参加人数50人】

とができる、ぬりえコーナーを設置すると、あつという間にたくさんぬりえで壁一面が埋まりました。いろんな「夜露死苦ガール」を見ることができ、とても楽しいイベントとなりました。(Y・M)



## 奈良美智展 プレママ & ファミリーツアー

2013.2.2



奈良美智展のプレママ&ファミリーツアーを行いました。定員を超える、15組29名の参加をいただき、二手に分かれてご案内しました。薄暗いプロンズ彫刻の部屋では、少し怖くなってしまったお友達もいましたが、にぎやかな音楽も鳴る通称「水戸部屋」に着くころには、みなご機嫌で見ることができ、ツアー終了後ももう一度最初から見る方もいらっしゃいました。ぬり絵にもチャレンジし、美術館での一日を家族で楽しんでいただけたようでした。(A・S)

【参加人数29人】

## 造形ワークショップ バレンタインイベント 「すごいチョコ」をつくる

2013.2.10



奈良美智展の関連イベントとして、小学校高学年以上の方を対象に、奈良さんの作品にインスピレーションを受けた手作りチョコをつくるワークショップを開催しました。初めに奈良美智展をじっくり鑑賞していただき、膨らんだイメージを「スゴチョコ設計図」にしました。スゴチョコ作りには、小さなボウル型のチョコレートを 사용합니다。器にしたり、ひっくり返して中にお菓子を詰めたりと参加者の趣向が凝らされ、生クリームやドライフルーツなどでデコレーションすると、個性あふれるスゴチョコが完成しました。出来上がったチョコは、その場で食べたり、ラッピングをして持ち帰ったりし、甘い匂いが漂う楽しいワークショップとなりました。(Y・M)

【参加人数12人】

## CAMKレクチャーカレッジ 奈良美智展、本展の特徴について

2013.2.24

展覧会企画担当学芸員の富澤が、奈良美智展の特徴について講演しました。まず、出品作品ほとんどすべてが2011・2012年に制作された新作であることと、1月27日の作家のアーティストトークからも、展覧会と作品の理解を深めるうえで、出品作品の制作順が非常に重要であるということ、また、展覧会そのものにおいても、横浜・青森・熊本と連続して行われた会場の展示構成そのものにも、作家の考えの変化の大きな流れが顕現されているという2項目を主軸にお話しました。横浜、青森、熊本の各会場風景写真をスライドで紹介し、各館の展示の差異点・共通点、そして最終会場としての熊本展での展開などについては、会場の方々からも非常に興味深く感じられたというご意見をいただきました。(H・T)

【参加人数60人】



## G III

ギャラリーⅢ(GⅢ)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

## CAMKコレクション展

2012.12.27 -2013.2.11



2007年以降に当館に収蔵された荒木経惟、川島清、中山ダイスケ、名知聡子の作品をご紹介します。いずれも収蔵以降、当館での初めての展示の機会となりました。日本を代表する作家、中堅、若手作家らによる、写真、彫刻、インスタレーション、絵画の多様な表現を訪れた方々がじっくりご覧になる姿が印象的でした。なかでも、展覧会会期と重なる年末年始の時期を中心に作品をセレクトした「日記」シリーズでは、アラキーが切り取る師走の喧噪と年始の華やかさを体感いただけたのではないかと思います。また、新春特別企画として、当館の収蔵作家であり、熊本県出身の画家・瀧下和之の「桃太郎図いろはカルタ」の原画をカルタとともに展示しました。(A・A)

# ART DE GYAN

アート・どぎゃん。

\*熊本弁でアートはどうなの? という意味です

## 第53回熊日書道展

熊本県立美術館分館

熊本市中央区千葉城町2・18

TEL 096・351・8411

2012.12.18-24



熊日主催の県下で最大の書道展である。県内書家の研さんの場として毎年開催されている。今回は5部門で417点の出品の中から202点の入賞・入選と、委嘱・無鑑査作家71人の作品が展示された。日展会員の有岡(俊卜)厓さん(漢字)と、土橋靖子さん(かな)が審査した。グランプリの熊日賞受賞の上村玉舜さん(熊本市)の端正に書かれた「漢字」。県賞受賞の井上邦子さん(熊本市)の流麗さと変化のある線の「かな」。市賞を受賞の代官司幽峰さん(高森町)の「鴛」による力強い一字書等、多彩な書風で会場は熱気に満ち、入場者も作品に熱心に見入っていた。(S・K)

## 森山淡草個展(書)

2012.12.14  
-2013.2.9

熊本県立劇場ギャラリー

熊本市中央区大江2丁目7・1

TEL 096・363・2233



県立劇場2階中央通り壁面がギャラリーとして利用された。森山淡草(元熊大教授)さんの書作品5点が展示された。「祭器六種」の漢字は殷時代の古代文字(金文)で意匠が面白く構成も変化に富むものである。杜甫詩の「飲中八仙歌」の李白の句は自由闊達な書風で伸びやかに書かれていた。「不可避の道」は金文で大書された「道」を中心に、周りに(高村)光太郎の詩文を配しており、無理のない自然な書となつている。「遊神」心を遊ばせると、「無尽」尽きることなしの2作の金文も構成、用筆のうまさが見られた。(S・K)

## アニマルエイジ展

2013.1.27-2.3

かね屋

熊本市新町2丁目11・19

電話なし

熊本市新町に位置する古い町屋「かね屋」。ここ1、2年、このスペースに魅力を感じるアーティストやパフォーマー、演劇関係者が作品発表やレジデンスの場として利用することで活気をみせている。「アニマルエイジ」展は、崇城



大学の三枝泰之さんらが中心となつた作家8名による企画展で、県下各所で積極的に展示を行うメンバーが揃う。その頑張りへのエールを送ると同時に、スペースの野蛮さに作品が拮抗しきれていない印象も受けた。質量や破壊力、あるいは、完璧に洗練された繊細さというような、過剰さ、が発揮できているだろうか。このコントロール(キュレーション)とも言うがうまく出来さえすれば、楽しみな作品がいくつもあつた。(A・S)

## みやたまゆきイラスト展

2013.2.1-20

画廊喫茶シエ

熊本市中央区大江本町6・9

TEL 096・372・8732



熊本イラストレーターズに所属しているみやたまゆきさんの個展。雪をテーマ

に子ども(ゆきんこ)たちが遊ぶ様子で、冬の楽しさ・あつたかさを表現したかったという。モデリングペーストという下地材を用いることでアクリルガッシュとは思えない質感が生み出され、幼い日の記憶を思い出させるような不思議な空気感をかもし出していた。(E・Z)

## 第15回熊本県独立書展 併催 徳永巢鶴書展

2013.2.5-11

熊本県立美術館分館



東京の独立書人団の熊本支部(中村太湯支部長)の会員25人の出品である。少字数書や古典の臨書など気迫こもる力強い作品が多く見られた。特に中村太湯支部長の古代文字による大作や、前川祐子さん、安部春山さん、大森澄子さんの力作が印象に残つた。初代県独立書人団支部長の徳永巢鶴(80才)さんの傘寿記念展も併催された。徳永さんは「雁塔聖教序」など大作の臨書5点到少字数書など25点を並べていた。「豊」や「愚」など躍動感にあふれた淡墨の美しい作品が多く見られ、変化のある筆力に富む作品となつていた。(S・K)

## 第14回書芸「風」展

2013.2.13-18

アートスペース大宝堂

熊本市中央区上通町5・6

TEL 096・354・2155



日展会友の書家丸山三千代さん主宰の書展である。会員24人が漢字、かな、調和体などに少字数書など約70点を展示していた。「熊本」について「自分の想い

## 崇城大学芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展

2013.2.19-2.24

熊本県立美術館本館

熊本市中央区二の丸2

TEL 096・352・2111

今年の卒業生・修了生43人の作品展。若々しく情熱的な力作が並んだ。



特に目を惹いたのが3点。当館の昨年度の熊本アートパレード(審査員:鶴田一郎)の大賞を受賞した岡昌美さん(日本画)の《サラ》は、200羽程度の兎で画面が埋め尽くされている。若冲の《百犬図》を思い出させる不気味な迫力と愛らしさである。また、田中千翔さん(彫刻)の《山眠る》は地母神を思わせるダイナミックな人物像で、アジア作家の作品に時に表れる雄大さを内に秘めている。修了生の島内美佳さん(彫刻)の《Beautiful》は老女をモデルにした巨大な頭部である。当館でのGⅢ(2011)86「九州アート全員集合」展の出品作品より倍増する魅力を放つ作品であった。展覧会カタログに誠実に「老」や「醜」の「美」を考えた痕跡が綴られており好ましい。(H・T)

# Visitor's letter

来館者のみなさんからのメッセージ

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

- ・夢の世界みたいだった。10年以上前から奈良さんの絵がとても好きだったので、熊本に来てくれて嬉しかったです。(熊本市・30代・女性)
- ・すばらしかった。娘の小さい頃にそっくりの絵があって感動しました。(熊本県・50代・男性)
- ・こんなに多くの作品が見られると思っていなかったの、とにかく嬉しいです。ブロンズの作品は特に、心打たれました。なぜか涙が出てきました。本当に来てよかったです。(福岡県・20代・女性)
- ・うれしくなったり、かなしくなったりして大変でした。でも、すごかった。でっかいキャンバスに絵の具をぶつきたい気分になりました。「君や僕にちょっと似ている」って言ってくれてありがとう。(福岡県・10代・女性)
- ・自分の小さい頃の姿に似ていて笑えました。私にそっくりでした。(熊本市・40代・女性)

## 編集後記



昨年よりじっくりと準備を進めて来ました奈良美智展、無事に熊本展での開催が始まり、市内や県内、神戸や広島など県外からの来館者の方々も多くお迎えしまして、皆さまの期待の大きさを日々実感しているところです。自らもいつも感じていることですが、本当に良い作品を見続けると、目が磨かれ、なにが良い作品なのか気付くようになってきます。本展に足を運ばれた方々も、会場内で知らぬ間に「違いを感じる目」を獲得していることを思うと、心が明るくときめきます。

編集長 富澤治子

先日、ミュージカル「100万回生きたねこ」を観ました。原作は、佐野洋子さんの同名絵本ですが、絵本の世界そのままに演出されていて、とても感動しました。隣の席の小学生くらいの女の子は、体を乗り出して夢中になって鑑賞していました。小さい頃に観たら、もっと世界に入り込んでしまっただろうなと羨ましくなりました。開催中の「奈良美智展」も、たくさんの親子連れの方をお見かけします。鑑賞後の勢いそのままに、《夜露死苦ガール》のぬりえをする子どもたちも多く、感じたことや、真似してみようとする姿が反映されたとても素敵な作品ばかりです。

担当 濱川倫子

「執筆者一覧」\* 原稿の文末にイニシャル表記  
兼城昌山(書道家)(S・K)  
藏座江美(熊本市現代美術館主任学芸員)(E・Z)  
富澤治子(熊本市現代美術館主任学芸員)(H・T)  
坂本顕子(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・S)  
芦田彩葵(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・A)  
高橋知江(熊本市現代美術館学芸アシスタント)(C・T)  
濱川倫子(熊本市現代美術館学芸アシスタント)(N・H)  
丸吉ゆかり(熊本市現代美術館学芸アシスタント)(Y・M)  
平原奈津美(熊本市現代美術館学芸アシスタント)(N・H)

ART KISS LETTER アートキッスレター  
Vol.61 春号(2013年3月) 【無料】  
発行人: 桜井武 デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI)  
編集: 富澤治子 印刷: シモダ印刷  
発行: 熊本市現代美術館

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3  
電話 096-278-7500  
ファックス 096-3559-7892  
http://www.cank.or.jp/

次号は初夏号(5月発行予定)

## 第4回 ニヤニヤネット・フェスティバル展

画廊喫茶二点鐘

熊本市手取本町3・8 有明ビル3F

TEL 096・326・3040



2月22日、「ネコの日」に合わせて開催されている展覧会。今年で4回目を迎える本展は、エアブラシで描かれた柔らかなタッチのネコや、カラフルな色や模様があしらわれた招き猫、アクセサリー等、13名の作家による愉快なネコ作品が展示されている。画廊店主が手にとって見せてくれたもの

2013.2.21-28

中には、作品の裏側(見えない部分)まで絵が描かれており、作り手の作品に対する情熱が感じられた。手のひらにすっぽりとおさまるような大きさの作品が多かったが、それぞれの作家が表現するネコの表情からは、可愛らしさや面白さを感じる事ができ、ほっと心安らぐ展覧会であった。(N・H)

## かじつゆめい個展 羽図

2013.2.3-28

長崎書店ギャラリー

熊本市中央区上通町6・23

TEL 096・353・0555

東京都出身の画家、かとうゆめこさんが3・11の震災以降、日記を書くように、はがきサイズの絵を描き続けて

いる作品による個展。会場には、作品が日付順に200点以上並んでいた。絵の一つ一つは、人物や動物や植物などが描かれているが、そのすべてに羽が生えている。「描かれているものは、東北であり、そこらへんであり、あなたであり、わたしです」と作家の言葉があり、そこには、震災で奪われた多くの生命に鎮魂の祈りを捧げる思いが感じられると同時に、日々暮らす中での色々な祈りも伝わる。日課のように描き続ける作品の力強さを感じるものだった。(N・H)



## JAGDA やさしいハンカチ展 PART2 熊本展

2013.2.26-3.3

崇城大学ギャラリー

熊本市中央区花畑町10・25

TEL 096・323・1158

JAGDA(日本グラフィックデザイナー協会)による被災地支援事業「やさしいハンカチ」の2回目となるプロジェクトの熊本巡回展が行われた。「やさしいハンカチ」は、東北の子どもたちの描いた絵をJAGDA加盟のグラフィックデザイナー達がハンカチの柄としてデザインして本人にプレゼントするものであり、一枚1200円で販売した収益は子どもたちの学校へと還元され、自分たちでその使い道を決めるといふ。熊本

からも岩上孝二さんから8人のデザイナーが参加し、総勢385種類の作品が展示された。このプロジェクトで印象的なのは、日本を代表する著名なデザイナーであっても子ども達の絵を生かす一人の黒子に徹している点である。国立デザインミュージアムの設立が話題となる現在、JAGDAという全国ネットワークを生かし、デザインと社会との関係性を探る好企画であった。(A・S)



## CAMK 2013 Exhibition Schedule

2013年度 CAMK  
展覧会スケジュール4月  
APR

## 熊本の華人展 vol.9

前期 4月27日[土] - 29日[月・祝]  
後期 5月3日[金・祝] - 5日[日・祝]

熊本のいけばなの祭典。熊本で活躍される流派の作品をお楽しみください。



花き生産者紹介コーナーより 2011

5月  
MAY

CAMKコレクション vol.4

## 「来た、見た、クマモト！」

5月29日[水] - 6月23日[日]

熊本市現代美術館のコレクションは、作家みずからが熊本に足を運び制作した作品が多数存在します。作家が「熊本に来て・見て・作った」作品などを通じて、あなたの住むまち熊本の魅力を再発見してみませんか？また、21世紀ならではのテーマの作品、人類普遍のテーマの作品など、当館自慢の名品や新規収蔵作品もあわせてご紹介します。

田中功起

《For Every Daydreaming》

2002

7月  
JUL魔法の美術館  
みんなで楽しむ光のアート

7月6日[土] - 9月8日[日]

色とりどりにきらめく光のオーロラ、その中で動き出す不思議な影たち…。「見て」「触れて」「参加」できる、最新のデジタル技術を駆使したメディア・アート作品が一堂に集まります。大人も子どもも夢中になって遊べるファンタジックな魔法の世界を、どうぞお楽しみください。



アトリエオモヤ「光であそぶ」(C) Atelier OMOYA

10月  
OCT

## Welcome to the Jungle

—熱々！東南アジアの現代美術—

10月5日[土] - 11月24日[日]

現在、その目覚ましい発展によって世界から注目をあびる東南アジアの国々。この地域では、多様な宗教や民族的背景のなかで人々が共生し、独自の文化が形成されてきました。本展では、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの計8か国の作家による、1999年以降の作品約30点を展示し、熱い東南アジアの「いま」をご紹介します。

本展は、シンガポール美術館協力の下、横浜美術館と熊本市現代美術館の共同企画により開催されます。

イー・イラン《スールー諸島の物語》より 2005  
シンガポール美術館蔵12月  
DECアール・ブリュット・ジャポネ  
ART BRUT JAPONAIS

12月7日[土] - 2014年2月23日[日]

2010年3月から2011年1月までパリ市立アル・サン・ピエール美術館で開催され、来場者12万人を数えた展覧会の凱旋展。芸術の都パリを席卷した63人の「ジャポネ(日本人)」の作品からさらに厳選された、やむにやまれぬ衝動から溢れだした作品の数々をご紹介します。



八重樫道代 《チャグチャグ馬コ》 2002 日本財団蔵

3月  
2014 MAR第25回 熊本市民美術展  
熊本アートパレード2014年  
3月8日[土] - 23日[日]

15歳以上の熊本市在住・在勤・在学者・熊本市出身者なら誰でも無審査で作品を出品することができる公募による展覧会です。